

## 2023度 自治医科大学附属病院 耳鼻咽喉科 専門研修プログラム

### 【プログラムの目的】

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の疾患は小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、外科的治療のみならず内科的治療も必要であり、専門医には幅広い知識と医療技術の習得が求められています。自治医科大学耳鼻咽喉科専門研修プログラム（以下、自治医大耳鼻科 PG）は、医学の変化に応じた知識・医療技術の質向上と、地域医療に貢献できる耳鼻咽喉科専門医を養成することを目的としています。また、日々の診療のみならず、学会発表や論文作成を通じて、科学者（Physician Scientist）としての能力を習得することも目標としています。

### 【本プログラムの特色】

自治医科大学は、医学の進歩の恩恵に浴しにくい、へき地や離島などの地域の健康を守り、医療に挺身する気概ある有能な総合臨床医を養成することを建学の精神として、昭和47年2月に設立されました。しかし、自治医科大学の使命は総合内科医を育成するだけではありません。総合的に広い視点で患者と疾患を診ることのできる、各分野の専門医を育成することも、重要な使命とされています。現在、我が国の医療・医学は転換期を迎えようとしています。今後迎える高齢者社会、福祉と介護、進歩した生命科学技術に追いつかない倫理などの課題が存在しています。これらの課題に建学当初から取り組んできた実績のある自治医大耳鼻科 PGでの研修は、患者を多方面から評価できる総合臨床能力を兼ね備えた専門医育成に重きを置いています。遺伝情報を扱うなど、近年飛躍的に発展した医療知識・技術とともに、原点である全人的な医療を身につけることを決して忘れてはなりません。自治医科大学の総合医を育成する環境を最大限に活用し総合的な医療と医学の知識を吸収しつつ、耳鼻咽喉科専門医としての資質、技量、人格を育てるのが本プログラムの特色です。本プログラム終了後は医育機関における診療・教育・研究、がん専門病院や地域中核病院における診療、大学院進学による研究など本人のキャリアアップに継がけていきます。本プログラムの指導医と専門医には複数の女性医師も含まれ、きめ細やかな女性医師へのキャリア支援も可能です。男女を問わず、将来の日本の耳鼻咽喉科医療を担う優れた医師の育成を目指しています。

### 【指導医と専門領域】

専門研修基幹施設：自治医科大学附属病院（年間手術 1,000 件）

プログラム統括責任者：伊藤真人（教授、診療科長）（耳科、小児耳鼻咽喉科）

指導管理責任者：西野 宏（教授）（頭頸部外科、鼻科、喉頭）

指導医：伊藤真人（教授、小児耳鼻咽喉科 診療科長）（耳科、小児耳鼻咽喉科）

金澤丈治（教授、喉頭機能外科部門）（頭頸部外科、鼻科、喉頭）

西野 宏（教授）（頭頸部外科、鼻科、口腔咽頭）

佐々木徹（准教授）（耳科、鼻科、口腔咽喉頭）

上村佐恵子（助教）（耳科、鼻科、口腔咽喉頭）

専門医： 島田ディラス茉莉（助教、病棟医長）（耳科、小児耳鼻咽喉科）

野澤美樹（助教）（助教）（耳科、鼻科、口腔咽喉頭）

長友孝文（病院助教、外来医長）（頭頸部外科、鼻科）

野田昌生（病院助教）（耳科、小児耳鼻咽喉科）

橋本 研（病院助教）（耳科、鼻科）

## 【専門研修連携施設】

連携する専門研修基幹施設

慶應義塾大学附属病院（年間手術 1,300件以上、耳科・鼻科手術症例豊富）

指導医：大石直樹（専任講師、保険医長）（耳科）

自治医科大学附属さいたま医療センター（年間手術 900件、耳科・鼻科手術症例豊富）

指導医：吉田尚弘（教授）（耳科、鼻科、口腔・咽頭、頭頸部外科）

金沢医科大学（年間手術 900件、鼻科手術症例豊富）

指導医：三輪高喜（教授）（耳科、鼻科、口腔・咽頭、頭頸部外科）

金沢大学（年間手術 600件、頭頸部外科手術症例豊富）

指導医：吉崎智一（教授）（耳科、鼻科、口腔・咽頭、頭頸部外科）

三重大学（年間手術 600件、鼻科手術症例豊富）

指導医：竹内万彦（教授）（耳科、鼻科、口腔・咽頭、頭頸部外科）

群馬大学（年間手術 600件、頭頸部外科手術症例豊富）

指導医：近松一朗（教授）（耳科、鼻科、口腔・咽頭、頭頸部外科）

浜松医科大学（年間手術 900件、頭頸部外科手術症例豊富）

指導医：三澤 清（教授）（耳科、鼻科、口腔・咽頭、頭頸部外科）

琉球大学（年間手術 1000件、頭頸部外科手術症例豊富）

指導医：鈴木幹男（教授）（耳科、鼻科、口腔・咽頭、頭頸部外科）

## 【地域の中核病院】

### がん専門病院

国立がん研究センター東病院、年間頭頸部外科手術件数 150 件以上

指導医：松浦一登（科長）（頭頸部外科）

### 喉頭科専門病院

国際医療福祉大学山王病院ボイスセンター（年間手術 900件、喉頭科手術症例豊富）

指導医：渡辺雄介（教授）（喉頭科、頭頸部外科）

## 【地域医療 関連施設】

### 地域の中核病院

新小山市民病院（年間手術 200 件、救急症例豊富）

指導医：山内 智彦（科長）（頭頸部外科、鼻科、口腔咽喉頭）

## 【募集定員：4名】

## 【研修開始時期と期間】

2023 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日

研修を行う専門研修連携施設および研修時期・期間は、専攻医ごとに適宜変更があります。

## 【応募方法】 応募資格：

- ・ 日本国の医師免許証を有する
- ・ 臨床研修修了登録証を有する（第 99 回以降の医師国家試験合格者のみ必要。2023 年 3 月 31 日までに臨床研修を修了する見込みの者を含む）。
- ・ 一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会（以下、日耳鼻）の正会員である（2023年 4 月 1 日付で入会予定の者を含む）。

応募期間：2022 年 10 月 1 日～2023 年 3 月 15 日

選考方法：書類審査および面接により選考する。面接の日時・場所は別途通知します。応募書類：願書、希望調査票、履歴書、医師免許証の写し、臨床研修修了証の写し

問い合わせ先および提出先：

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3 3 1 1-1

自治医科大学附属病院 耳鼻咽喉科

電話：0285-58-7381 Fax：0285-44-5547

臨床研修指導医 上村佐恵子 saeko824@jichi.ac.jp

金澤丈治 kanatake@omiya.jichi.ac.jp

URL：<https://www.jichi.ac.jp/oto/student/program.html>

## 【プログラム概要】

### 大学附属病院と地域中核病院での研修

自治医科大学耳鼻科 PG では、専門研修基幹施設である自治医科大学附属病院と、地域の中核医療を担う研修連携施設（新小山市民病院）、研修関連施設（国際医療福祉大学ボイスセンター）において、それぞれの特徴を活かした耳鼻咽喉科研修を行い、日耳鼻が定めた研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験できます。4年間の研修期間の内、1-2年目は自治医科大学附属病院で耳鼻咽喉科の基本的知識、診療技術を習得します。3年目以降に国際医療福祉大学ボイスセンター、新小山市民病院で研修を行います。国際医療福祉大学ボイスセンターは、国内屈指の喉頭科専門病院であり、喉頭微細手術や嚥下機能改善手術などの音声・喉頭外科の手術症例が豊富です。新小山市民病院は、Common diseaseの症例数が豊富で手術件数も多く、救急疾患も取り扱う病院なので、この研修では耳鼻咽喉科のCommon diseaseから専門的疾患まで、地域医療に必須な手術手技や救急対応などに習熟できます。

### 頭頸部癌診療の高度な研修

将来、頭頸部癌診療に従事することにも興味を持っている専攻医には、国立がん研究センター東病院において1年間、がん診療に特化した研修を受けられるコースもあります。頭頸部がん診療を専門とする指導医による高度な研修を受けることができます。

### 連携する専門研修基幹施設での研修

専門研修基幹施設として連携する、慶應義塾大学附属病院、金沢大学附属病院、三重大学附属病院、金沢医科大学病院、自治医科大学さいたま医療センターにおける研修を受けることもできます。慶應義塾大学附属病院は、年間手術件数1,300件以上と症例数が多く、耳科・鼻科・頭頸部領域など豊富な経験が積めます。金沢大学附属病院、群馬大学附属病院、浜松医科大学附属病院、三重大学附属病院は地域の専門研修基幹病院で、頭頸部癌を含む耳鼻咽喉科・頭頸部外科の広い範囲の症例を万遍なく経験することができます。自治医科大学さいたま医療センターは、特に耳科・鼻科領域の症例が豊富です。金沢医科大学病院では、鼻科学・頭頸部外科学の豊富な症例を経験できます。また、琉球大学附属病院では、鼻科学・頭頸部癌の豊富な経験

とともに離島県であることを背景とした耳鼻咽喉科地域医療を学ぶことができます。これらのコース希望者は、1-2年目は自治医科大学附属病院で耳鼻咽喉科の基本的知識、診療技術を習得します。3年目以降は希望する連携基幹施設での研修を行います。自治医科大学のみならず、他の大学病院（医育機関）での研修を受けることで、臨床や研究面での視野が格段に広がります。

### 豊富な臨床経験と将来のアカデミアの基礎確立が可能

自治医科大学附属病院では高度な医療および先端医療を経験できることはもとより、その立地から各領域の救急疾患やCommon diseaseも含めたあらゆる疾患が集まっており、大学附属の病院でありながら万遍なく多くの症例を経験できます。そのため、他の大学病院（医育機関）とは異なり、自治医科大学附属病院の中における研修だけでも耳鼻咽喉科専門医として必要な、全般的な研修も可能です。さらに自治医科大学にはわが国で唯一と言える大学病院併設型の附属小児医療センターがあり、独立した診療科として小児耳鼻咽喉科がありますから、小児医療に興味のある方にも最適です。さらに耳鼻咽喉科内に喉頭機能外科部門を設立し、昨今ますますニーズが高まってきている音声・嚥下障害の高度なスキルを習得できます。以上のことは、専門研修基幹施設コースにおいて基幹施設（自治医科大学、慶應義塾大学、金沢大学、三重大学、金沢医科大学、自治医科大学さいたま医療センター、群馬大学、浜松医科大学、琉球大学）のみで研修を行なう専攻医においても、耳鼻咽喉科・小児耳鼻咽喉科の救急疾患やCommon diseaseも含めた幅広い研修が可能であることを示しています。さらに、手厚い指導のもとで専攻医が積極的に手術を執刀できるよう体制を整えており、専攻医の手術スキルの習得に役立っています。

このように自治医科大学附属病院研修プログラムは、耳鼻咽喉科のあらゆる分野の一次治療から三次治療までの経験ができるとともに、Physician-Scientist（研究医）としても日常診療の経験を積重ねることのできるプログラムです。将来のトランスレーショナルリサーチと産学共同研究の下地を作ることでもあります。

### 多職種間で検討される症例

自治医科大学附属病院では、週 2 回の症例検討カンファレンスを開催しています。この症例カンファレンスは看護師、放射線診断部医師、放射線治療部医師と看護師、病理診断医、歯科口腔衛生師が参加します。多職種間の意見交換を通じて病態や治療概念などを学び、日々の研修に行かすことができます。また、毎週栄養サポートチーム（NST）回診があります。嚥下と栄養管理の知識を深めることができます。月に 1 回、頭頸部Cancer Boardが耳鼻咽喉科医師、歯科口腔外科医師、形成外科医師、放射線診断部医師、放射線治療部医師、臨床腫瘍部医師、脳神経外科医師、歯科口腔衛生師とともに症例検討をおこなっています。このような症例検討を通して疾病の理解、診断と治療、手術手技の習得、解剖知識の理解に役立てることが出来ます。4 年間の研修中、日本耳鼻咽喉科認定学会や関連する国際学会に積極的に参加し学会発表を行

います。また、筆頭著者として学術雑誌に 英文・和文の論文発表を行います。そのために積極的に科学的根拠となる情報を収集分析し、日々の診療に活かすよう、Physician-Scientistとしての科学的思考や生涯学習の基本を身につけます。プログラムに定められた研修の評価は施設ごとに指導責任者（関連施設）、指導医および専攻医が行い、プログラム責任者が最終評価を行います。4年間の研修終了時にはすべての領域の研修到達目標を達成することが可能であり、研修の評価や経験症例は日耳鼻が定めた方法でオンライン登録します。

## 研修に効果的な豊富な教材

専攻医は耳鼻咽喉科病棟と同じ階にある耳鼻咽喉科専攻医室に個人用の机スペースが得られます。この部屋には参考図書が多数揃っており、自由に閲覧できます。また院内全域において自治医大Wi-Fi環境に接続が可能です。大学図書館にもアクセスできるため、文献検索と電子ジャーナル閲覧が自由にできます。また情報センターにアクセスしてWeb教材の使用も可能です。

### 【基本的研修プラン】

#### <基本コース>

- 1-2年目（2023年度）：自治医科大学附属病院にて研修
- 3年目（2025年度）：中核医療を担う連携病院（国際医療福祉大学ボイスセンター）、および地域医療を担う関連病院（新小山市民病院）において研修を行う。  
希望により3年目または4年目でも可能
- 4年目（2026年度）：上記の連携・関連病院または自治医科大学附属病院にて研修

#### <頭頸部癌専攻コース>

- 1年目（2023年度）：自治医科大学附属病院にて研修
- 2年目（2024年度）：地域医療を担う関連病院（新小山市民病院）において研修を行う。
- 3年目（2025年度）：国立がん研究センター東病院において研修を行う。
- 4年目（2026年度）：自治医科大学附属病院にて研修。

#### <専門研修基幹施設コース>

- 1年目（2023年度）：自治医科大学附属病院で研修
- 2年目（2024年度）：慶應義塾大学附属病院、金沢大学附属病院、三重大学附属病院、金沢医科大学病院、群馬大学附属病院、浜松医科大学附属病院、琉球大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センターにて研修
- 3年目（2025年度）：自治医科大学附属病院、慶應義塾大学附属病院、金沢大学附属病院、三重大学附属病院、金沢医科大学病院、群馬大学附属病院、浜松医科大学附属病院、

琉球大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センターにて研修

4年目（2026年度）：自治医科大学附属病院で研修

**【研修コース例】**

**基本コース**

1年目	2年目	3年目	4年目
自治医科大学 附属病院	自治医科大学 附属病院	新小山市民病院 (関連施設)	ボイスセンター (連携施設)

**頭頸部癌専攻コース**

1年目	2年目	3年目	4年目
自治医科大学 附属病院	新小山市民病院 (関連施設)	国立がん研究センター 東病院	自治医科大学 附属病院

**専門研修基幹施設コース**

1年目	2年目	3年目	4年目
自治医科大学 附属病院	金沢医科大学 附属病院	慶應義塾大学 附属病院	自治医科大学 附属病院

**【研修の週間計画】**

専門研修基幹施設：自治医科大学附属病院の例

	月	火	水	木	金
午前	手術 病棟業務	手術	手術 外来 病棟業務	病棟回診 外来 病棟業務	抄読会 手術 外来 病棟業務
午後	手術 病棟業務	手術 外来 カンファレンス	手術 外来 カンファレンス		

- 医療安全、感染対策、医療倫理に関する講習会にそれぞれ年1回以上出席
- 月に1回 頭頸部Cancer Board
- 週に1回 NST回診

## 【年次毎の到達目標】

### 【1年目】

研修施設：自治医科大学附属病院

期間：2023年4月1日～2024年3月31日

一般目標：耳鼻咽喉科医としての基本的臨床能力および医療人としての基本的姿勢を身につける。このために、代表的な疾患や主要徴候に適切に対処できるための知識、技能、診療態度および臨床問題解決能力の習得に努める。

#### (行動目標) 基本姿勢態度

研修到達目標：#1-5, 7-20

#### 基本的知識

研修到達目標（耳）：#22-28, 34

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#44-49

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#65-75

研修到達目標（頭頸部）：#89-94

#### 基本的診断法

研修到達目標（耳）：#29-33, 37, 39-43

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#50-59, 61-63

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#76-82, 88

研修到達目標（頭頸部）：#95-100, 105, 106, 108-110

#### 経験すべき治療など

術者あるいは助手を務めることができる

耳科手術（鼓膜切開術、鼓膜チューブ留置術、鼓室形成術、人工内耳手術など）

鼻科手術（鼻中隔矯正術、下鼻甲介切除術、内視鏡下鼻副鼻腔手術など）

口腔咽喉頭手術（口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術、舌・口腔・咽頭腫瘍摘出術、喉頭微細手術など）

頭頸部腫瘍手術（頸部リンパ節生検、頸部郭清術、頭頸部腫瘍摘出術など）

緩和医療

リハビリテーション（嚥下、音声、めまい、聴覚）

#### 経験すべき検査

下記の検査を自ら実施し、その結果を解釈できる

聴覚検査：純音聴力検査、語音聴力検査、ティンパノメトリー、自記オージオメトリー検査、耳音響放射検査、聴性脳幹反応、幼児聴力検査、中耳機能検査（鼓膜穿孔閉鎖検査）、内耳機能検査（SISIテスト）、補聴器適合検査

平衡機能検査：起立検査、頭位および頭位変換眼振検査、温度眼振検査、視運動性眼振検査、指標追跡検査、重心動揺検査

耳管機能検査  
顔面神経予後判定 (NET、ENoG)  
鼻アレルギー検査 (鼻汁好酸球検査)  
中耳・鼻咽腔・喉頭内視鏡検査  
嗅覚検査 (静脈性嗅覚検査、基準嗅覚検査)  
鼻腔通気度検査  
味覚検査 (電気味覚検査、濾紙ディスク法)  
超音波検査、穿刺吸引細胞診  
嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査

## 研修内容

専攻医は入院患者の周術期を含めた管理を行う。  
頭頸部腫瘍カンファレンス (毎週火曜日 18:00-18:30)  
頭頸部放射線治療カンファレンス (毎週火曜日 18:30-19:00)  
総回診 (木曜日 9:00-11:00)  
入院患者・術前・術後のカンファレンス (毎週水曜日 17:00-18:00)  
学会報告・学会発表予行 (必要時：水曜日 17:30-18:00)  
抄読会 (毎週金曜日 8:00-8:30)  
専門外来については、耳科手術、難聴、めまい、アレルギー、頭頸部の各分野をローテートする  
医療倫理、医療安全、感染対策に関する講習会にそれぞれ年1回以上出席する  
日本耳鼻咽喉科学会が定めた学術集会において年1回以上発表を行う  
筆頭著者として学術雑誌に英文・和文の論文発表を行う

## 【2年目】

期間：2024年4月1日～2025年3月31日

研修施設：地域医療関連病院・専門研修基幹施設で1年間の研修を行う。

研修施設：新小山市民病院、国際医療福祉大学東京ボイスセンター、慶應義塾大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、金沢大学附属病院、三重大学附属病院、金沢医科大学病院、群馬大学附属病院、浜松医科大学附属病院、琉球大学附属病院

一般目標：地域中核病院・専門研修基幹施設において、耳鼻咽喉科領域のプライマリ疾患に対する診断および治療と専門的手術の実地経験を積む。また、様々な疾患や救急対応を身につける。

(行動目標) 基本姿勢態度

研修到達目標：#1-21

## 基本的診断法

研修到達目標 (耳)：#29-33, 35-41, 43

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#50-64

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#76-88

研修到達目標（頭頸部）：#95-110

### 経験すべき治療など

術者あるいは助手を務めることができる

耳科手術（鼓膜切開術、鼓膜チューブ留置術、鼓室形成術、など）

鼻科手術（鼻中隔矯正術、下鼻甲介切除術、内視鏡下鼻副鼻腔手術など）

口腔咽喉頭手術（口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術、舌・口腔・咽喉頭腫瘍摘出術、喉頭微細手術など）

頭頸部腫瘍手術（頸部リンパ節生検、頸部郭清術、頭頸部腫瘍摘出術など）

緩和医療

リハビリテーション（嚥下、音声、めまい、聴覚）

### 経験すべき検査

聴覚検査、平衡機能検査、顔面神経予後判定、鼻アレルギー検査、鼻咽腔・喉頭内視鏡検査、嗅覚検査、鼻腔通気度検査、味覚検査、超音波検査、穿刺吸引細胞診、嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査、音声機能検査など

### 研修内容

耳鼻咽喉科疾患全般、特に救急疾患などにも重点を置く。

専攻医は指導医のもと入院患者の周術期をふくめた管理と外来診療を行う。

夜間や休日の日当直を行い、耳鼻咽喉科領域の救急疾患に対応する。

術前・術後カンファレンス（週1回）

医療倫理、医療安全、感染対策に関する講習会にそれぞれ年1回以上出席する

日本耳鼻咽喉科学会が定めた学術集会、および関連する国際学会において年1回以上発表を行う

筆頭著者として学術雑誌に英文・和文の論文発表を行う

### 【3年目、4年目】

期間：2025年4月1日～2027年3月31日

### 基本コース

3年目：研修施設：新小山市民病院、自治医科大学附属病院

4年目：研修施設：国際医療福祉大学東京ボイスセンター、自治医科大学附属病院

### 頭頸部癌専攻コース

3年目：研修施設：国立がん研究センター東病院

4年目：研修施設：自治医科大学附属病院

## 専門研修基幹施設コース

3年目：研修施設：自治医科大学附属病院、慶應義塾大学附属病院、金沢大学附属病院、三重大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、金沢医科大学病院、群馬大学附属病院、浜松医科大学附属病院、琉球大学附属病院

4年目：研修施設：自治医科大学附属病院

一般目標：これまで得た技術・知識をもとに、院内および院外との病々連携、病診連携をとるとともに、他科医師やメディカルスタッフとのチーム医療を実践する。

### （行動目標） 基本姿勢態度

研修到達目標：#1-21

### 基本的診断法

研修到達目標（耳）：#29-33, 35-41, 43

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#50-64

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#76-88

研修到達目標（頭頸部）：#95-104, 110

### 経験すべき治療など

術者あるいは助手を務めることができる

頭頸部腫瘍カンファレンス（毎週火曜日 18:00-18:30）

頭頸部放射線治療カンファレンス（毎週火曜日 18:30-19:00）

総回診（木曜日 9:00-11:00）

入院患者・術前・術後のカンファレンス（毎週水曜日 17:00-18:00）

学会報告・学会発表予行（必要時：水曜日 17:30-18:00）

抄読会（毎週金曜日 8:00-8:30）

耳科手術（鼓膜切開術、鼓膜チューブ留置術、鼓室形成術、など）

鼻科手術（鼻中隔矯正術、下鼻甲介切除術、内視鏡下鼻副鼻腔手術など）

口腔咽喉頭手術（口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術、舌・口腔・咽頭腫瘍摘出術、喉 頭微細手術など）

頭頸部腫瘍手術（頸部リンパ節生検、頸部郭清術、頭頸部腫瘍摘出術など）

緩和医療

リハビリテーション（嚥下、音声、めまい、聴覚）

### 経験すべき検査

聴覚検査、平衡機能検査、顔面神経予後判定、鼻アレルギー検査、鼻咽腔・喉頭内

視鏡 検査、嗅覚検査、鼻腔通気度検査、味覚検査、超音波検査、穿刺吸引細胞診、嚥下内視 鏡検査、嚥下造影検査など。

## 研修内容

専攻医は指導医とともに外来診療と病棟診療を行い、チーム医療を実践する  
 夜間や休日の当直を行い、耳鼻咽喉科領域の救急疾患に対応する  
 専門外来については、耳科手術、難聴、めまい、アレルギー、嗅覚、頭頸部の各分野をローテートする

医療倫理、医療安全、感染対策に関する講習会にそれぞれ年1回以上出席する  
 日本耳鼻咽喉科学会が定めた学術集会、および関連する国際学会において年1回以上発表を行う

筆頭著者として学術雑誌に 英文・和文の論文発表を行う

### 【研修到達目標】

専攻医は4年間の研修期間中に基本姿勢や態度、耳領域、鼻・副鼻腔領域、口腔咽喉頭領域、頭頸部領域の疾患について、定められた研修到達目標を達成する

### 本プログラムにおける年次別の研修到達目標

研修年度		1	2	3	4
<b>基本姿勢・態</b>					
1	患者、家族のニーズを把握できる。	○	○	○	○
2	インフォームドコンセントが行える。	○	○	○	○
3	守秘義務を理解し、遂行できる。	○	○	○	○
4	他科と適切に連携できる。	○	○	○	○
5	他の医療従事者と適切な関係を構築できる。	○	○	○	○
6	後進の指導ができる。		○	○	○
7	科学的根拠となる情報を収集し、それを適応できる。	○	○	○	○
8	研究や学会活動を行う。	○	○	○	○
9	科学的思考、課題解決学習、生涯学習の姿勢を身につ	○	○	○	○
10	医療事故防止および自己への対応を理解する。	○	○	○	○
11	インシデントリポートを理解し、記載できる。	○	○	○	○
12	症例提示と討論ができる。	○	○	○	○
13	学術集会に積極的に参加する。	○	○	○	○
14	医事法制、保健医療法規・制度を理解する。	○	○	○	○
15	医療福祉制度、医療保険・公費負担医療を理解する。	○	○	○	○

16	医の倫理・生命倫理について理解し、行動する。	○	○	○	○
17	感染対策を理解し、実行できる。	○	○	○	○
18	医薬品などによる健康被害の防止について理解する。	○	○	○	○
19	医療連携の重要性とその制度を理解する。	○	○	○	○
20	医療経済について理解し、それに基づく診療実践がで	○	○	○	○
21	地域医療の理解と診療実践ができる（病診、病病連 携、地域包括ケア、在宅医療、地方での医療経験）。		○	○	○
<b>耳</b>					
22	側頭骨の解剖を理解できる。	○			
23	聴覚路、前庭系伝導路、顔面神経の走行を理解する。	○			
24	外耳・中耳・内耳の機能について理解する。	○			
25	中耳炎の病態を理解する。	○			
26	難聴の病態を理解する。	○			
27	めまい・平衡障害の病態を理解する。	○			
28	顔面神経麻痺の病態を理解する。	○			
29	外耳・鼓膜の所見を評価できる。	○	○	○	○
30	聴覚検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	○
31	平衡機能検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	○
32	耳管機能検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	○
33	側頭骨およびその周辺の画像（CT、MRI）所見を評価	○	○	○	○
34	人工内耳の仕組みと言語聴覚訓練を理解する。	○			○
35	難聴患者の診断ができる。		○	○	○
36	めまい・平衡障害の診断ができる。		○	○	○
37	顔面神経麻痺の患者の治療と管理ができる。	○	○	○	○
38	難聴患者の治療・補聴器指導ができる。		○	○	○
39	めまい・平衡障害患者の治療、リハビリテーション	○	○	○	○
40	鼓室形成術の助手が務められる。	○	○	○	○
41	アブミ骨手術の助手が務められる。	○	○	○	○
42	人工内耳手術の助手が務められる。	○			○
43	耳科手術の合併症、副損傷を理解し、術後管理がで きる。	○	○	○	○
<b>鼻・副鼻</b>					
44	鼻・副鼻腔の解剖を理解する。	○			
45	鼻・副鼻腔の機能を理解する。	○			

46	鼻・副鼻腔炎の病態を理解する。	○			
47	アレルギー性鼻炎の病態を理解する。	○			
48	嗅覚障害の病態を理解する。	○			
49	鼻・副鼻腔腫瘍の病態を理解する。	○			
50	細菌・真菌培養、アレルギー検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	○
51	鼻咽腔内視鏡検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	○
52	嗅覚検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	○
53	鼻腔通気度検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	○
54	鼻・副鼻腔の画像（CT、MRI）所見を評価できる。	○	○	○	○
55	鼻・副鼻腔炎の診断ができる。	○	○	○	○
56	アレルギー性鼻炎の診断ができる。	○	○	○	○
57	鼻・副鼻腔腫瘍の診断ができる。	○	○	○	○
58	顔面外傷の診断ができる。	○	○	○	○
59	鼻中隔矯正術、下鼻甲介手術が行える。	○	○	○	○
60	鼻茸切除術、篩骨洞手術、上顎洞手術などの副鼻腔手術が行える。		○	○	○
61	鼻・副鼻腔腫瘍手術の助手が務められる。	○	○	○	○
62	鼻出血の止血ができる。	○	○	○	○
63	鼻科手術の合併症、副損傷を理解し、術後管理ができる。	○	○	○	○
64	鼻骨骨折、眼窩壁骨折などの外科治療ができる。		○	○	○
<b>口腔咽喉</b>					
65	口腔、咽頭、唾液腺の解剖を理解する。	○			
66	喉頭、気管、食道の解剖を理解する。	○			
67	扁桃の機能について理解する。	○			
68	摂食、咀嚼、嚥下の生理を理解する。	○			
69	呼吸、発声、発語の生理を理解する。	○			
70	味覚障害の病態を理解する。	○			
71	扁桃病巣感染の病態を理解する。	○			
72	睡眠時呼吸障害の病態を理解する。	○			
73	摂食・咀嚼・嚥下障害の病態を理解する。	○			

74	発声・発語障害の病態を理解する。	○			
75	呼吸困難の病態を理解する。	○			
76	味覚検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	○
77	喉頭内視鏡検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	○
78	睡眠時呼吸検査の結果を評価できる。	○	○	○	○
79	嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	○
80	喉頭ストロボスコープ検査、音声機能検査を実施し、その所見を評価できる。		○	○	○
81	口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術ができる。	○	○	○	○
82	咽頭異物の摘出ができる。	○	○	○	○
83	睡眠時呼吸障害の治療方針が立てられる。		○	○	○
84	嚥下障害に対するリハビリテーションや外科治療の適応を判断できる。		○	○	○
85	音声障害に対するリハビリテーションや外科治療の適応を判断できる。		○	○	○
86	喉頭微細手術を行うことができる。		○	○	○
87	緊急気道確保の適応を判断し、対処できる。		○	○	○
88	気管切開術とその術後管理ができる。	○	○	○	○
<b>頭頸部腫</b>					
89	頭頸部の解剖を理解する。	○			
90	頭頸部の生理を理解する。	○			
91	頭頸部の炎症性および感染性疾患の病態を理解する。	○			
92	頭頸部の先天性疾患の病態を理解する。	○			
93	頭頸部の良性疾患の病態を理解する。	○			
94	頭頸部の悪性腫瘍の病態を理解する。	○			
95	頭頸部の身体所見を評価できる。	○	○	○	○
96	頭頸部疾患に内視鏡検査を実施し、その結果を評価できる。	○	○	○	○
97	頭頸部疾患に対する血液検査の適応を理解し、その結果を評価でき	○	○	○	○

98	頭頸部疾患に対する画像検査の適応を理解し、その結果を評価できる。	○	○	○	○
99	頭頸部疾患に病理学的検査を行い、その結果を評価できる。	○	○	○	○
100	頭頸部悪性腫瘍のTNM分類を判断できる。	○	○	○	○
101	頭頸部悪性腫瘍に対する予後予測を含め、適切な治療法の選択ができる。		○	○	○
102	頸部膿瘍の切開排膿ができる。		○	○	○
103	良性の頭頸部腫瘍摘出（リンパ節生検を含む）がで		○	○	○
104	早期頭頸部癌に対する手術ができる。		○	○	○
105	進行頭頸部癌に対する手術（頸部郭清術を含む）の助手が務められ	○	○	○	○
106	頭頸部癌の術後管理ができる。	○	○	○	○
107	頭頸部癌に対する放射線治療の適応を判断できる。		○	○	○
108	頭頸部癌に対する化学療法の適応を理解し、施行できる。	○	○	○	○
109	頭頸部癌に対する支持療法の必要性を理解し、施行できる。	○	○	○	○
110	頭頸部癌治療後の後遺症を理解し対応できる。	○	○	○	○

### 【症例経験】

専攻医は4年間の研修期間中に以下の疾患について、外来あるいは入院患者の管理を受け持ち医として実際に診療経験を積む。手術と検査症例との重複は可能です。

難聴・中耳炎 25 例以上、めまい・平衡障害 20 例以上、顔面神経麻痺 5 例以上、アレルギー性鼻炎 10 例以上、鼻・副鼻腔炎 10 例以上、外傷・鼻出血 10 例以上、扁桃感染症 10 例以上、嚥下障害 10 例以上、口腔・咽頭腫瘍 10 例以上、喉頭腫瘍 10 例以上、音声・言語障害 10 例以上、呼吸障害 10 例以上、頭頸部良性腫瘍 10 例以上、頭頸部悪性腫瘍 20 例以上、リハビリテーション（難聴、めまい・平衡障害、顔面神経麻痺、音声・言語、嚥下）10 例以上、緩和医療 5 例以上

### 本プログラムにおける年次別の症例経験基準

(1) 疾患の管理経験：以下の疾患について、外来・入院患者の管理経験を主治医ないし担当医（受け持ち医）として実際に経験し指導医の指導監督を受けます。

	基準症例	研修年度			
		1	2	3	4

難聴・中耳炎	25 例以上	10	5	5	5
めまい・平衡障害	20 例以上	5	5	5	5
顔面神経麻痺	5 例以上	2	1	1	1
アレルギー性鼻炎	10 例以上	2	3	3	2
副鼻腔炎	10 例以上	5	5		
外傷、鼻出血	10 例以上	2	3	3	2
扁桃感染症	10 例以上	2	3	3	2
嚥下障害	10 例以上	4	2	2	2
口腔、咽頭腫瘍	10 例以上	4	4	2	
喉頭腫瘍	10 例以上	4	4	2	
音声・言語障害	10 例以上	4	2	2	2
呼吸障害	10 例以上	2	3	3	2
頭頸部良性腫瘍	10 例以上	2	4	4	
頭頸部悪性腫瘍	20 例以上	10	5	5	
リハビリテーション（難聴、めまい・平衡障害、顔面神経麻痺、音声・	10 例以上	6	2	2	
緩和医療	5 例以上	2	1	1	1

(2) 基本的手術手技の経験：術者あるいは助手として経験する（(1)との重複は可能）。

耳科手術	20例以上	鼓室形成術、人工内耳、アブミ骨手術、顔面神経減荷術	15	2	2	1
鼻科手術	40例以上	内視鏡下鼻副鼻腔手術	5	15	15	5
口腔咽喉頭手	40 例以	扁桃摘出術	15 例以上	3	10	2
		舌、口腔、咽頭腫瘍摘出	5 例以上	2	3	3
		喉頭微細手術	15 例以上	5	5	
		嚥下機能改善、誤嚥防止、音声機	5 例以上	4	2	2
頭頸部腫瘍手	30 例以	頸部郭清術	10 例以上	5	3	2
		頭頸部腫瘍摘出術（唾液腺、喉頭、頭頸部腫瘍	20 例以上	5	3	2

(3) 個々の手術経験：術者として経験する（(1)、(2)との重複は可能）。

扁桃摘出術	術者として 10 例以上	5	5		
鼓膜チューブ挿入術	術者として 10 例以上	1	4	4	1
喉頭微細手術	術者として 10 例以上	3	3	3	1
内視鏡下鼻副鼻腔手術	術者として 20 例以上	2	8	8	2
気管切開術	術者として 5 例以上	1	2	2	
良性腫瘍摘出術(リンパ節生検を含む)	術者として 10 例以上	1	4	4	1

## 【経験すべき検査】

### 自覚的聴力検査

標準純音聴力検査、自記オーディオメーター、標準語音聴力検査、簡易聴力検査、気導純音聴力検査、内耳機能検査、耳鳴検査、中耳機能検査、後迷路機能検査、

### 他覚的または行動観察による聴力検査

鼓膜音響インピーダンス検査、チンパノメトリー、耳小骨筋反射検査、遊戯聴力検査、耳音響放射検査 (OAE)、鼓膜音響反射率検査、耳管機能検査、聴性誘発反応検査、聴性定常反応、蝸電図、補聴器適合検査、人工内耳関連検査（神経反応テレメトリー、マッピング、等）

### 顔面神経検査

ENoG、NET

### 平衡機能検査

標準検査、温度眼振検査、視運動眼振検査、回転眼振検査、視標追跡検査、迷路瘻孔症状検査、頭位及び頭位変換眼振検査、電気眼振図、重心動揺計

### 鼻・副鼻腔検査

鼻腔通気度検査、基準嗅力検査、静脈性嗅覚検査、アレルギー性鼻炎関連検査

### 音声言語医学的検査

音声機能検査

### 口腔、咽頭検査

電気味覚検査、味覚定量検査(濾紙ディスク法)、ガムテスト、終夜睡眠ポリグラフィー、簡易検査

### 内視鏡検査

嗅裂部・鼻咽腔・副鼻腔入口部ファイバースコープ、喉頭ファイバースコープ、中耳ファイバースコープ、内視鏡下嚥下機能検査、嚥下造影検査、

### 生検

扁桃周囲炎又は扁桃周囲膿瘍における試験穿刺(片側)、リンパ節等穿刺又は針生検、甲状腺穿刺又は針生検組織試験採取、切採法